

みんなのアクセシビリティ評価ツール miChecker 開発環境準備手順書

2023 年 3 月 31日 版

本書の目的

本書はみんなのアクセシビリティ評価ツール(以下 miChecker と表記)の開発環境を準備するための方法について説明するものです。

はじめに

アクセシビリティチェックツールは、様々な事業者が提供しています。「みんなのアクセシビリティ評価ツール **miChecker**（エムアイチェッカー）」は、ウェブアクセシビリティ対応の取組みを支援するために、総務省が開発し **Eclipse Accessibility Tools Framework (ACTF)** プロジェクトに寄贈されたアクセシビリティチェックツールです。ここでは、**miChecker** の開発環境を準備するための方法について説明します。

1. 前提条件

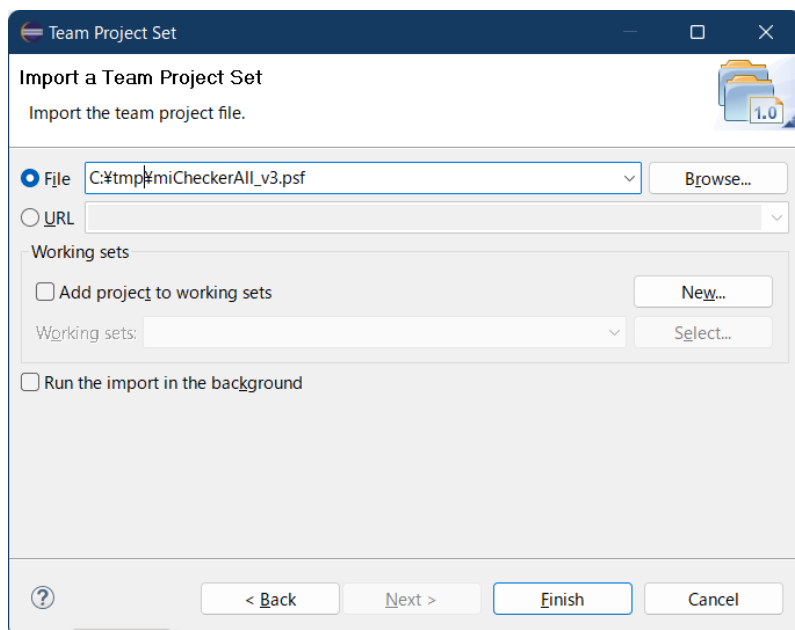
- ✓ オペレーティングシステム(OS)
Windows 10, Windows 11 (Windows 11 を推奨)
- ✓ 開発環境・前提ソフトウェア
 - Eclipse IDE (2022-12 版) (Windows 64bit 版)
<https://www.eclipse.org/downloads/packages/release/2022-12/r>
(RCP and RAP Developers 用を推奨)

注1: Java 実行環境は Eclipse IDE に同梱されているものを用いることを前提としています

2. miChecker ソースコードの導入

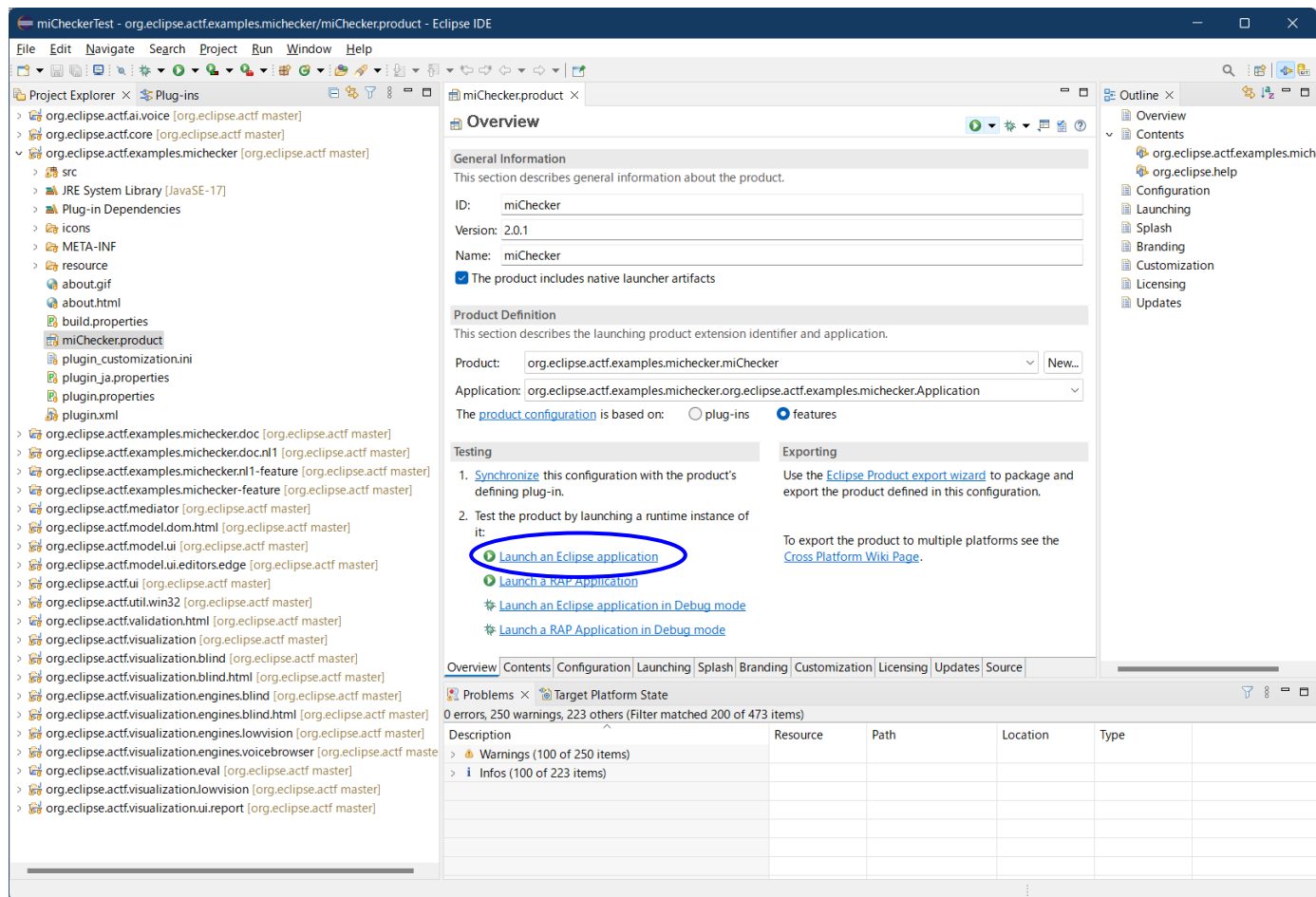
Step 1: Team Project Set（ソースコード一括導入用）ファイルを下記 URL よりダウンロードします。
https://www.eclipse.org/actf/downloads/tools/miChecker/miCheckerAll_v3.psf

Step 2: Eclipse の **File -> Import -> Team -> Team Project Set** メニューから Step 1 でダウンロードした **miCheckerAll_v3.psf** を指定してソースコードを導入します。



(SDK を用いる導入方法については、準備が整い次第、改めて手順を記載します。)

3. miChecker の起動



org.eclipse.actf.examples.michecker プロジェクトを選択し、プロジェクト内の miChecker.product ファイルをダブルクリックするなどしてプロダクトエディタを開きます。エディタ内の **Testing** 項目内に有る **Launch an Eclipse Application** を選択すると、miChecker が起動します。

4. 日本語化の実施について

Eclipse Babel プロジェクトより提供されている言語パックを導入することで、一部のメニュー等を日本語化することが出来ます。

- 下記のダウンロードサイトより、利用する Eclipse の Version (2022-12 等) に合わせた Eclipse 環境向け日本語パック (BabelLanguagePack-eclipse-ja_****.zip など) をダウンロードします。

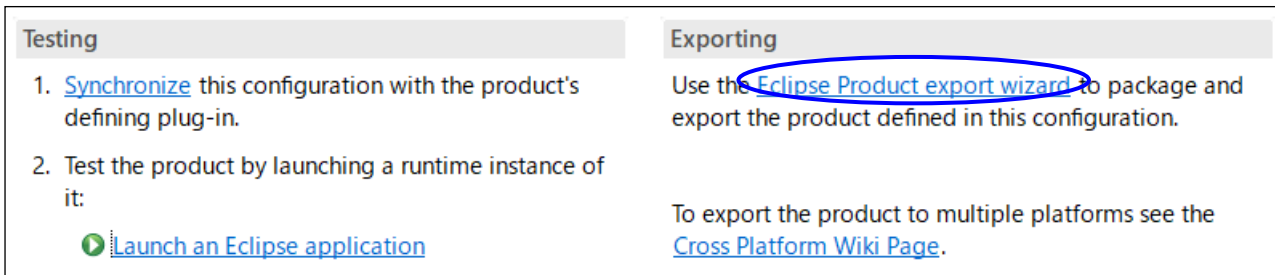
<https://eclipse.dev/babel/downloads.php>

https://download.eclipse.org/technology/babel/babel_language_packs/R0.20.0/2022-12/2022-12.php#ja

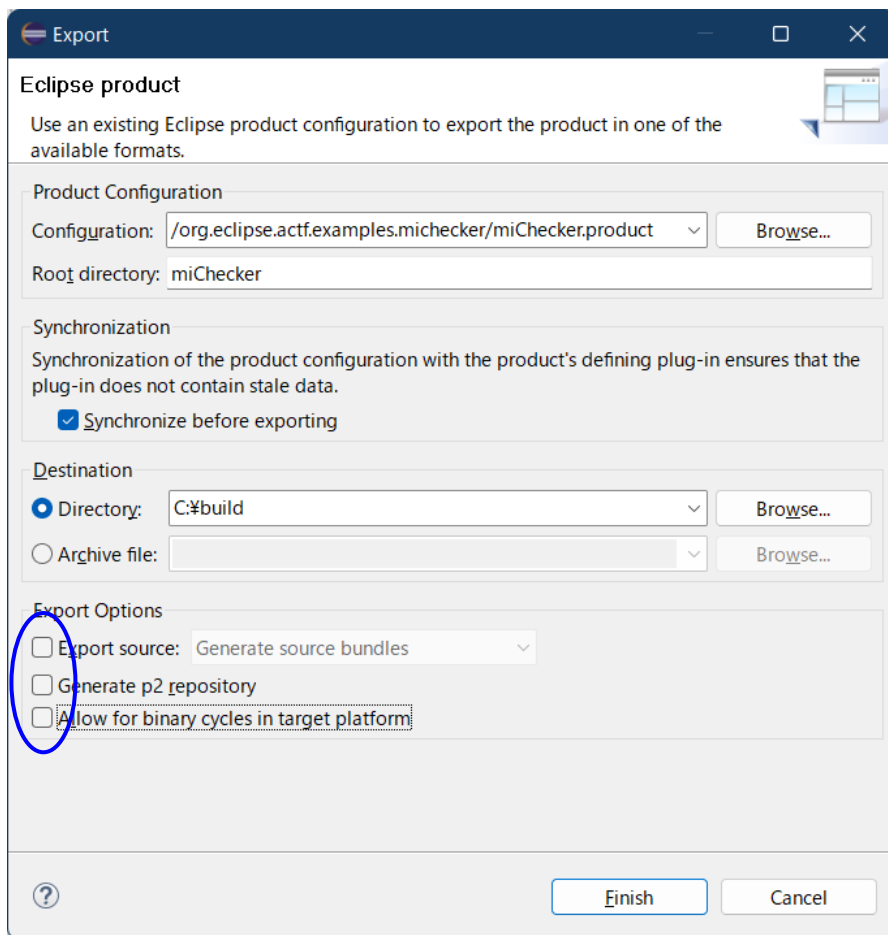
- ダウンロードした zip ファイルを展開したフォルダ内にある plugins, features の二つのフォルダを、開発環境として利用している Eclipse のフォルダ(eclipse.exe の存在するフォルダ)内の dropins フォルダにコピーします。(同名のフォルダが存在する場合には「上書き」として下さい。)
- 上記作業を実施後に Eclipse を再起動の上、miChecker を起動すると、一部のメニュー等が日本語化されます。(開発環境である Eclipse の各メニューも日本語化されます。)

5. miChecker のビルド

3. と同様の手順にて、miChecker.product ファイルを開き、**Exporting** 項目内に有る **Eclipse Product export wizard** を選択し、ウィザードに従って miChecker をビルドします。

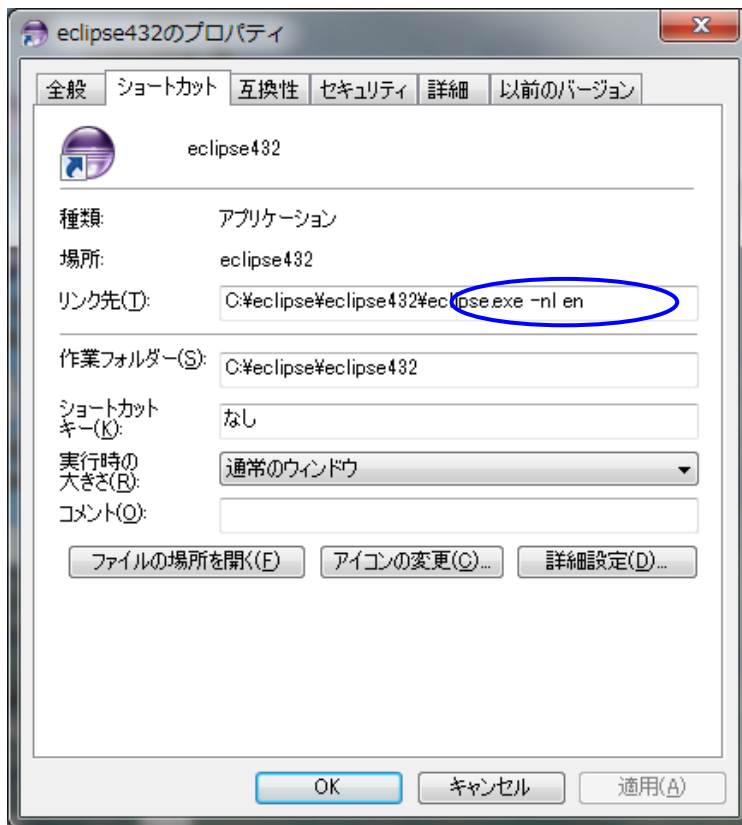


ウィザードのパネルにおいては、**Root directory** を **miChecker** とし、ビルド結果の出力先ディレクトリを **ディレクトリー** 欄で選択した上で、**Export Options** の各オプションをすべてオフにした状態で **Finish** ボタンを押してビルドを実施します。

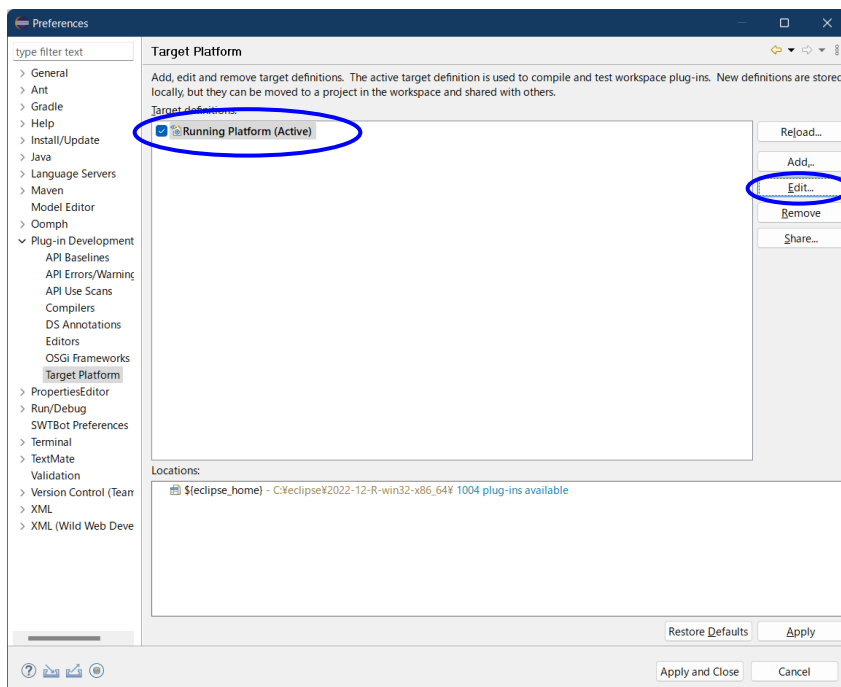


ビルドが終了すると、**ディレクトリー** 欄で指定した場所に **miChecker.exe** を含むビルド結果一式が出力されるので、**miChecker.exe** を起動して、正しく動作することを確認します。

注： Eclipse を日本語化した状態で**終了**ボタンを押してもビルドが実施されない場合があります。その場合は、該当する **eclipse.exe** に対してショートカットを作成した上で、ショートカットのプロパティ内の「リンク先」の最後に **-nl en** を追記し、Eclipse を英語環境で起動するとビルド可能になる場合があります。



なお、この設定を行った Eclipse から miChecker を起動した場合、miChecker が英語版で起動されます。その場合には、Eclipse の 'Window' > 'Preferences' メニューから 'Plug-in Development' > 'Target Platform' を選択し、'Running Platform (Active)' を選択状態にして 'Edit' メニューを選択します。



'Edit Target Definition' のウィザードで 'Environment' タブを選択し、Locale として 'ja - Japanese' に変更した上で Finish を選択します。

Edit Target Definition

Target Content

Edit the name, description, and plug-ins contained in a target.

Name: Running Platform

Locations Content Environment Arguments Implicit Dependencies

Target Environment

Specify the target environment. If left blank, the default environment variables from the host (running) platform will be used.

Operating system: win32

Windowing System: win32

Architecture: x86_64

Locale: ja - Japanese

Java Runtime Environment

Specify the JRE or execution environment for this target. Selecting a named JRE will change the workspace default JRE setting.

☒ Default JRE

☐ JRE name: jre

☐ Execution Environment: CDC-1.0/Foundation-1.0

Finish Cancel

この設定を実施した後に 3. の手順で **miChecker** を起動すると、日本語版の **miChecker** を起動することが出来ます。

6. Eclipse ACTF プロジェクトに関して

Eclipse ACTF プロジェクトは、Eclipse Foundation 内で活動しているオープンソースプロジェクトです。詳細は、プロジェクトのホームページ（<http://www.eclipse.org/actf/>）をご覧ください。

6.1 ソースコード

Eclipse ACTF プロジェクトのソースコードは、GitHub で公開されている ACTF プロジェクトのレポジトリより誰でも入手可能です。

<https://github.com/eclipse-actf/org.eclipse.actf>

6.2 開発者向け情報（API リファレンス等）

ACTF Visualization SDK には、開発者向けの情報（API リファレンス等）が含まれています。SDK 導入後、Eclipse の **Help > Help Contents** メニューから Help を開き、Eclipse Visualization SDK Developer Guide を参照してください。

（最新の SDK の提供は 2023 年後半になる予定です）

6.3 問題報告・改善提案

もし、ACTF に起因する問題を発見した場合は、下記の URL より問題報告を行うことが出来ます。

<https://github.com/eclipse-actf/org.eclipse.actf/issues>

（事前に GitHub のアカウントを作成する必要があります。）

6.4 開発に関する議論等

ACTF の開発に関する意見・質問等がある場合は、メーリングリストに投稿することも可能です。下記の URL より、“actf-dev” メーリングリストに登録し、議論に参加してください。

<https://dev.eclipse.org/mailman/listinfo/actf-dev>

6.5 ソースコードのライセンス

miChecker のソースコードは、Eclipse Public License Version 1.0 (“EPL”)の下で公開されており、EPL の下で誰でも自由に入手し改変を加えることができます。なお、EPL のライセンス文はソースコードと共に提供されていますが、<http://www.eclipse.org/legal/epl-v10.html> から確認することも可能です。

権利表示について

Microsoft および Windows は Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標は Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

その他、各ページに記載されている会社名、システム名、製品名などは、一般に 各社の商標または登録商標です。なお、各ページ内では (TM)、(R) および (C) マークは省略しています。